

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年6月1日（月）～平成27年6月7日（日）〔第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)手足口病でした。

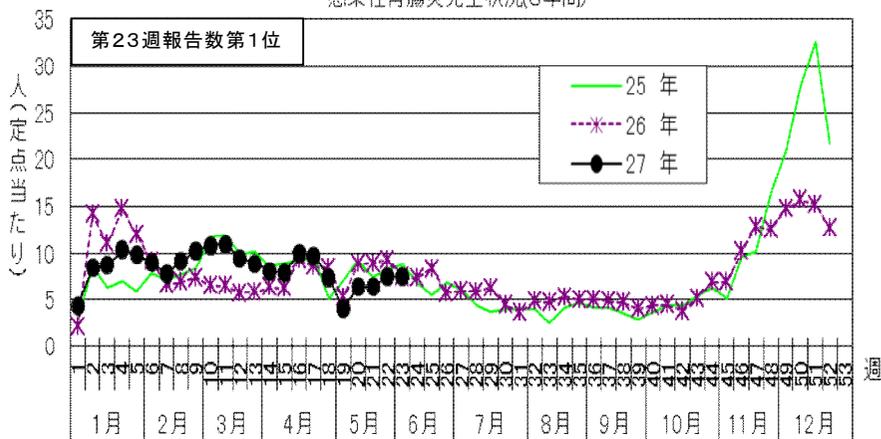
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.48人と前週（7.45人）とほぼ横ばいで、例年と同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.64人と前週（5.30人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

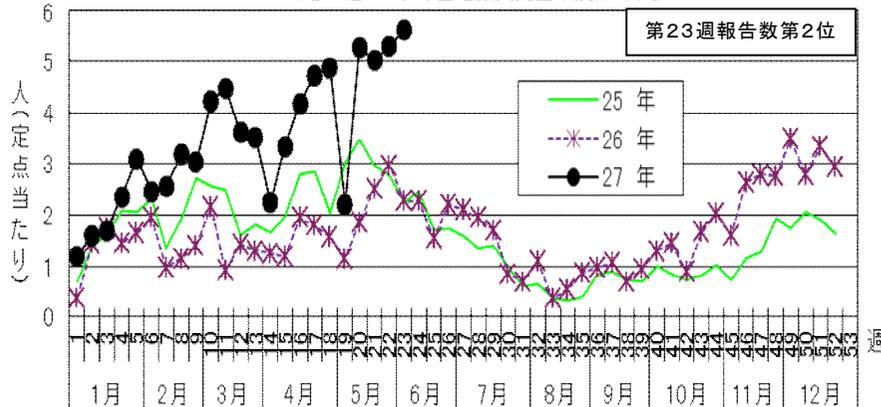
手足口病の定点当たり患者報告数は2.76人と前週（2.39人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



“梅毒”の患者が年々増加しています！！

梅毒は、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによつてうつる感染症です。1967年には年間約11,000件の報告がありましたが、その後減少傾向が続いていました。しかし、近年では、1960～70年代と比較すると数は少ないものの増加傾向にあり、特にここ数年、女性の割合が増えています。

梅毒は、検査や治療が遅れたり、治療せずにいると、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。感染が疑われる場合は、早めに検査を受け、早期に治療を始めることが重要です。

川崎市における梅毒発生状況



「先天梅毒」ご存知ですか？

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがあります。これを、「先天梅毒」といいます。

日本では前期の妊婦健診で梅毒検査が行われていますが、前期に検査陰性の妊婦が、分娩までに感染して先天梅毒となる報告も複数あります。

妊婦健診をしっかりと受診し、その後の感染予防にも努めましょう。

